

ひろば

優良公民館紹介

第75回優良公民館（文部科学大臣表彰）
大分東部公民館

大分東部公民館（大分市） 館長 上野 隆生

「全国優良公民館表彰に参加して」

令和5年2月2日木曜日。東京は大分と変わらず、春の気配を感じる陽気であった。表彰式は、文科省東館第一講堂にて築和生副大臣出席のもと執り行われ、受賞する公民館を代表して岡山市立京山公民館熊澤勉館長に表彰状が授与されたのち、公民館を中心としたSDGsの取組の報告をいただいた。式を終え、今後ますます地域住民の生涯学習の振興とそれを支える社会教育の推進を決意したところである。

では、受賞に際し、本館の概要・取組等を紹介させていただく。

本館は、昭和62年に中心市街地東部に開館した木造施設で、ロビー上部に伝統的な投首（さす）構造を取り入れている。木造吹き抜けを生かしたロビーコンサートや、コケ玉づくり教室や親子キャンプ教室など、コロナ禍の中、昨年度は28教室を実施し、75,431名の来館者をお迎えした。

運営方針としては、地域の社会教育とまちづくりの核として、大分東部地域まちづくりビジョン（H30年提言）に基づき、その実現に向けて3つの柱（①安全・安心なまちづくり②子どもに高齢者に優しいまちづくり③地域での子育て支援）を掲げ取り組んでいる。

具体的には、子ども対象や高齢者対象の教室・講座を増設し、地域住民と協働で開催する「まちづくりフォーラム」や3世代で避難や災害時の食事等を体験する「親子防災キャンプ」などのイベント開催とともに、各校区の老人会支援・放課後の居場所事業支援等を実施している。また、地域の子育て団体や民生委員・児童委員、市福祉保健部局等と協働し、平成29年から市内で先駆けて「おおいた家庭の日推進事業」も実施してきた。一方、学社連携事業「親子プログラミング

教室」を開催し、プログラミング的思考を親子で学ぶ場の提供や、安全・安心にスマートフォンを防災や電子申請等に利用いただくための「ショッピングや防災に役立つスマホ講座」、NPOと協働で取り組む認知症予防に向けた脳の健康教室など、時代のニーズに応える取組も実施するなど、不易流行を志向して運営に取り組んでいる。

本市では、公民館のまちづくり支援機能を強化するため、平成21年に公民館の管理・運営業務を市民部に移管し、社会教育の推進とまちづくり支援の2つの柱を持つこととなった。今後もこれまで、学んだものを地域で生かし、そこから新たな学びに出会う「学びの循環」を支援し、市民一人ひとりの生涯学習の振興と地域の課題解決に寄与していきたい。



講座の様子

東部公民館

令和4年度 大分県公民館連合会研修報告

公民館関係職員研修会

テーマ別研修会①

テーマ別研修会②



公民館関係職員研修会

期日 令和4年5月25日(水)
会場 大分県立図書館 視聴覚ホール
 Zoomも併用したハイブリッド研修
 県内各地の公民館関係者(自治公民館を含む)及び社会教育関係者等38名
 Zoom参加(49名)

内容

○講義
 *講義「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点としての公民館」公民館の多様な活動様式づくりを一緒に考えましょう」

講師 大分大学大学院 教育学研究科 教授 清國 祐二氏

○事業説明
 *講義「人権尊重のまちづくり
 ～登録型本人通知制度について～」

説明 人権教育・部落差別解消推進課 主任社会教育主事 秋吉 邦治 氏

参加者の声(アンケートから)

- ・清國先生の1+1は3+5になるという話は今まで言われてきたことで、それではないという話を話していただけて安心した。
- ・児童生徒の持続可能な未来のために、学校と地域が協働するにあたり、ぜひ学校教育関係者にも受けていただきたいと思った。
- ・社会教育や公民館活動で地域課題の解決につながる部分は多いと改めて感じた。
- ・「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点としての公民館」の講義を受講して、学校教育と社会が連携することで、よりよいコミュニティを形成できると理解した。
- ・オンライン研修で参加しやすかった。公民館や学校は地域にとって重要なインフラであることを再認識した。
- ・コロナ禍により大きく変わる社会の変化の中で本当に必要なものが何であったのかを改めて感じた。
- ・コロナ禍で公民館活動も縮小している中、興味深いデータを示して今後の公民館活動の再構築についてのご示唆はとても参考になった。

テーマ別研修会①

期日 令和4年7月14日(木)
会場 大分県立図書館 視聴覚ホール
 県内各地の公民館関係者(自治公民館を含む)及び社会教育関係者等31名

内容

○報告
 *報告「『やさしい日本語』の普及事業について」
報告者 大分県立図書館 学校・地域支援課 主任社会教育主事 黒木 哲也 氏

○研修1
 *講義「大分県における障がい者の学びの現状と課題」
講師 大分県身体障害者福祉センター 副所長 吉川 広明 氏

○研修2
 *講義「秋田県・障害者の生涯学習支援モデル事業」
講師 秋田県能代市中央公民館 事業係長 佐藤 邦彦 氏

○研修3
 *ワークショップ
 「公民館活動による障がい者の学びの支援」
公民館講座(計画)を作ってみよう」
助言者 秋田県能代市中央公民館 事業係長 佐藤 邦彦 氏

参加者の声(アンケートから)
 ・能代市佐藤氏の取組は大変参考になった。事業の企画・周知・実施等整理して理解することができた。
- ・障がい者の方への公民館講座を具体的に話していただき、大変勉強になった。
- ・主催者側が笑顔で来館者を迎える講師はプロでなくてよい。
- ・地域住民の学びの場である公民館に障がい者が抜け落ちていたことに気づかされた。



テーマ別研修会②

期日 令和4年9月16日(金)
会場 大分県身体障害者福祉センター 体育室
 大分県母子・父子福祉センター 研修室・会議室
 県内各地の公民館関係者(自治公民館を含む)及び社会教育関係者等29名

内容

○報告
 *報告「『市町村のICT環境』に関する調査について」
報告者 大分県立図書館 学校・地域支援課 主任社会教育主事 黒木 哲也 氏

○研修1
 *演習「障がい者スポーツを体験しよう」
卓球バレー・フライングディスク」
講師 卓球バレー大分代表 渡邊 法子 氏
 大分県卓球バレー協会 公認指導員 佐藤 貞子 氏
 大分県障害者フライングディスク協会 事務局 森田ますみ 氏

○研修2
 *演習 「公民館が行う知的障がい者支援講座」
(Zoom対応)
講師 NPO法人 ぶろじえくとPlus 相談スペース ポッシユ 相談支援専門員 足立 志津子 氏

○研修3
 *ワークショップ
 「公民館活動による障がい者の学びの支援」
公民館講座(計画)を作ってみよう」
ファシリテーター 県教育庁社会教育課 社会教育主事 太郎良 将彦 氏

参加者の声(アンケートから)
 ・実際にスポーツを体験することができて、楽しさや難しさを感じることができた。
- ・障がい者の生涯学習について今まで深く意識したことがなかったが、建議や研修を通してイメージすることができるようになった。
- ・障がい者への体験支援の深い思いが伝わった。公民館から地域から協力できることでやっていきたいと思います。
- ・ぜひ機会があれば広げたい。



第52回九州ブロック社会教育研究大会大分大会 第73回大分県公民館研究大会 分科会報告

期日 令和4年10月6日(木)～7日(金)
会場 J・COMホルトホール大分

「協育」で人と人との絆を紡ぐまちづくりと地域の持続的発展のために社会教育が目指すもの」をテーマに、開催された。コロナ禍の中、日程を短縮、参加者数を制限して実施した。

分科会概要

第1分科会

①地域活動を充実させる社会教育委員の在り方
②地域の持続的発展に資する社会教育の取組

テーマ 『地域コミュニティの活性化に向けた社会教育の役割』

発表者 大分県社会教育委員 安達 美和子 氏
錦町教育委員会教育振興課社会教育係 地域人権教育指導員
放課後子供教室コーディネーター 園田なつみ 氏

〈主な質疑〉

Q 建議の後、成果をどのように検証しているのか。
A 検証については、諮問、答申が出たら、県に予算がつく。
Q 放課後子ども教室の参加率について、高齢者の指導者は組織化されているのか、事業費として県費とか国費とか使っているのか。
A 募集は学校を通じて毎年4月にしている。指導者の人数に限りがあるため受け入れ人数は20人である。参加率は学校の全校生徒数によって違う。コーディネーターの募集は広報誌と口頭で行っている。事業費は県からの補助を受けている。週1回にしたのは、様々な体験活動がメインだから。

〈助言者より〉

各々市町村の活動事例を参考に発言、意見するだけでなく、社会教育委員としての在り方を見直す必要がある。
・自分の団体活動を得ての実体験をもとに地域に一員としての活動をし、地域の応援団になる必要がある。
・子どもや高齢者だけでなく縦系、横系となり地域の方々の異年齢交流をしていけるのではないかと。子どもと高齢者をつなぐだけでなく地域同士をつなぐ必要性がある。
・世代間のつながりが多様化し、コミュニティを継続していく事が困難になっている。

第2分科会

①地域・学校・家庭の連携・協働
②青少年の積極的な地域活動への参画に向けた取組

テーマ 『将来の地域を担う青少年の育成』

発表者 長崎県立対馬青年の家 指導員 多田 侑加 氏
出水市教育委員会生涯学習課 生涯学習係 主事 徳田 康平 氏

〈主な質疑〉

Q 学校教育を終えて社会人として巣立つ時に郷土に残る人が多いかそれとも一度、故郷を離れてから戻る人がいるのか。

A 中学を卒業後に島外への高校進学割合が多い。現状をふまえ行政も郷土の学習に力をいれている。

対馬に戻って活躍している方もいるが出たままの方もいる。対馬にずっと住み続けたいと思える事業等を実施したい。

Q 委員の参加率について。行政職員がどの位かかわっているのか。どのようなことをしているのか具体的に教えてほしい。

A 定例会の参加率は4～6割。定例会の日程は安心メールでアンケートをして出席率が一番多い日で決める。子ども達の主体性を大事に後ろで見守り、話しがそれってしまった場合は助言等するが基本は会員達の主体性に任せる。

〈助言者より〉

連携において協力者などを得るポイントは「必要とする」とである。地域も学校もお互いに必要とさせる。子ども達にもあなた達の力が必要と自覚させることが大切である。施設・社会教育は人と人が必要とされるようにする場になる。社会正義の実現に必要なことは、「やっつけてはいけないことをする」、「やらなければいけないことをしない」、「この2つの罪を無くしていくこと。やらなければいけないことを知ること。みんなが言葉で子どもに聞かせる。それが地域活動参画の近道になる。」

第3分科会

①地域団体と社会教育との連携・協働
②地域課題や福祉課題の解決に向けた取組

テーマ 『地域課題の解決に向けた地域人材の育成』

発表者 名護市社会教育委員 宮里 辰宏 氏
本郷まちづくり推進委員会 副会長 小倉 俊二 氏

〈主な質疑〉

Q 市子連へのヒアリングの結果、行政が主体になっているという意識があると言っていたが、その意識をどうやって変えたのか。
A 団体も行政も「流れでやっている」「やらなければいけない」という意識だった。それを社会教育委員が団体に入り「任意団体である」という意識を植え付けた。下請けではないという意識が浸透していった。

Q 7年間でありとあらゆる活動をされているが、推進協議会がどうしてできたのかノウハウを知りたい。組織体制は？人材・資金はどうやって集めたのか？
A 現役を引退された方が推進協議会に企画を持ち込みそれぞれ取り組んでいる。いろいろな場所で推進協の活動の楽しさを話している。収入は市の交付金のみ。予算は限られているので、ヒアリングして優先順位を決めて行っている。



〈助言者より〉

「社会教育委員が実際にどのくらい動けるか」ということは開発の余地がある。「イベント型から人材育成型へ」というのは良い言葉だと思う。小学生にとって中・高校生という「近い世代の斜めの関係」というのは有効であると聞く。また高齢者は「長い距離の斜めの関係」であるので、それらを使うことは教育に有効である。
・圧倒的な活動量だと思った。これだけやると地域でやることのスタンダードが高いレベルになり、それが維持されるのは大事であると思う。ただ、地域団体が連合体を作る場合は、単位団体にたくさんの方の動員や業務を降ろすと負担感が増し不満が出る場合が多い。

第4分科会

①高齢者の力を社会参画に活かす活動
②世代間のつながりを紡ぐ高齢者の育成に向けた取組

テーマ 『人生100年時代における高齢者の学びの在り方』

発表者 佐賀市立綱島公民館 主事 松村早紀子 氏
ゆめさが大学 8期生「敏&ドリムバンド」 代表 本田 健一 氏
久留米市社会教育委員 高宮 隆二 氏

〈主な質疑〉

Q ゆめさが大学の参加者は何名になるのか？公民館利用者の制限はあるのか？広報の仕方はあるのか？
A 650名いる。(今年度)県内4校あり。県内各地から集まっている。佐賀市の公民館は誰でも使えるが、代表が市民であれば無料。地域に個別にお知らせすることが多い。社協の公民館集まりなどそれぞれの組織の中で広報している。毎月地区館長連絡会等でも力を入れている。

Q コミュニティセンターとの連携ができたところがあるが、できているか？
A 3ヶ所のコミュニティセンターとの連携はできている。

〈助言者より〉

公民館は、「地域に出たい」、高齢者は「自分のやりたいことをやりたい」、これをマッチングするために、公民館や行政には何をすればいいのか。少しずつ回数を重ね、続けていくことが必要だと考える。

・地縁コミュニティは「支援コミュニティ」になりうると思っている。子どもは、いろいろな世代から見守りたいと思われている。地域の中に出番を作り、支援コミュニティの声を聴く必要がある。支援コミュニティの話も聞いた、地縁コミュニティの想いも聴かないといけない。





豊佐公連研修会に参加する職員のみなさん。
(2022.3.16)



講演テーマは「限界集落の小さな挑戦」。補助金を有効活用した集落の取り組みを学ぶ。
(2022.3.16)



間伐材を活用した、「木ローリング」(カーリングのレクリエーション版)。講師の発案制作。日々の創意工夫が「生涯学習」となる。(2022.3.16)

豊肥・佐伯地区公民館連合会は、竹田市及び豊後大野市による豊肥地区公民館連合会と佐伯市単独による佐伯地区公民館連合会が、平成25年度に統合して発足した県内では比較的新しい連合会組織である。統合する以前からこの二地区は交流を行っており、平成の大合併以前も研修会などを合同で実施するなど、協力関係の地下はすでにあつた上での統合となった。

現在、豊佐公連の活動は、定期総会と研修会、そして県公連関係など連絡調整を主な取り組みとしている。

その中のメイン事業である研修会について、令和4年度は、3月17日を予定しており、令和3年度は3月16日、竹田市のグランツたけた「キナーレ」において行われた。研修内容は、「限界集落の小さな挑戦」自治公民館を拠点とした地域維持活動」として、久住公民館の足立達哉館長によりご講演をいただいた。竹

田市久住町白丹地区の中ほどに位置する小さな集落「丸山」において、自治公民館である丸山生活改善センターを様々な交付金、補助金を駆使しながら改修し、さらに、研修や合宿の誘致を図り、地域の活性化を図った奮闘ぶり地域住民の変化を紹介していただいた。高齢化率が55%を超えた数値上限界集落である「丸山自治会」のモットーは「行政に頼りきりにならない」である。竹田市に限らず、豊後大野市、佐伯市ともに人口減少が進み今後、限界集落と言われる地域が増えていく中、社会教育におけるもつとも重要な分野である「人材育成(人づくり)」の重要性を、改めて感じさせる貴重な講演会になった。

人口減少の進む豊肥・佐伯地域において公民館における「人材育成」の推進を、3市が一層の連携を図り取り組んでいきたい。

佐伯市教育委員会 社会教育課
戸高 直人

日田地区公民館連合会

日田地区公民館連合会は、コロナ禍の影響により総会や研修会等が開催できない状況であったため、令和3年度にリモート会議用のWEBカメラとマイクセットを購入していた。

令和4年度は、この機材を活用しWEB開催により総会を開催した。玖珠から日田へは移動に片道約1時間を要すが、この方法であればセットアップで約30分、総会及び情報交換で約1時間となることから、大幅に拘束時間を短縮することができ、有効な手段であることが分かった。

しかしながら、モニターをおしとの開催であったため、直接会った際には、イメージと違い本人だとすぐにわからないなどの状況もあり、やはり対面して実施することの必要性も感じた結果となった。

そのような中、約4年ぶりの開催となる研修会を参加型で2月に開催することができ、「公民館での地域学校協働活動の在り方」、「子どもたちを受け入れる公民館の役割とは」と題して2名の方に講演をいただき、コミュニティ・スクール導入により、公民館の在り方が変化してきていることや、子どもたちの生活規範が近年大きく変化していることなどについて研修を行った。

公民館は地域のよりどころとして、多様な機能を持ち合わせている

ことから、地域の状況だけでなく、国や県、民間団体等の近況を学び常にバージョンアップする必要がある。今後も継続的に研修を行っていく必要性を感じている。

日田地区公民館連合会

事務局長 伊東 寿憲





わがまち公民館



内容だと自負していたが、参加者は驚くほど少なく、地域のニーズとのズレを痛感させられた。



市内アートめぐり



親子ふれあいマルシェ

国東地区公民館は、国東市内16か所にある地区公民館の一つで、市の中心部に位置する国東中央公民館に併設されている。これまでの本館の活動は、高齢者の参加率が高い一方、若年層の参加が皆無であった。そこで、若い人が参加したくなる活動を試行錯誤してきたので、その取り組みを次のとおり紹介する。

私が4年前に館長に就任して初めて取り組んだ青少年育成事業では、ドローンとeスポーツの体験講習会を企画した。時代に即した内容だと自負していたが、参加者は驚くほど少なく、地域のニーズとのズレを痛感させられた。

次に、近年、市内に世界レベルの芸術作品が設置されていることから、小学生を対象に市内アートめぐりバスツアーを企画し、これに、ALT（外国語指導助手）にも参加してもらうことで、国際文化交流の機会も取り入れた。この企画も参加者が集まらず苦労したが、参加した子どもには好評で、市報 市ケーブルテレビの取材も加わり、子どもたちが楽しく学び姿を市民にお届けすることができた。

さらに今年度は、若い女性・子育て世代が楽しめる場所が少ない本市に少しでも貢献できればとの思いで、市内の子育て世代女性の協力をいただき、初めて「親子ふれあいマルシェ」を開催することができた。多肉寄せ植えづくり体験をはじめ、雑貨、洋服、アクセサリーや飲食店など、バラエティに富んだ30以上の出店があり、430名の来場者で賑わった。

ねらい通りの成果に結びつかない難しさはあるが、これからも地域のみなさんと一緒に、時代に即した公民館活動に取り組んでいきたい。



国東市 国東地区公民館

国東地区公民館
館長 酒匂 法子

湯布院公民館は由布市の西部に位置する湯布院町の中央公民館である。令和3年に「生活と文化が融合するまちづくりの拠点」として湯布院振興局、図書館などで構成する湯布院地域複合施設「ゆふいんラックホール」に移転した。同町における市教育委員会事務局支所の機能も有することから、湯布院町における教育の拠点として次の10年後の湯布院の未来に向けて「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」の推進を図っている。



由布市 湯布院公民館

由布市湯布院公民館
主査 佐藤 啓太

地域協育では、青少年ボランティアサポートセンター主催の「放課後子ども教室」や各種団体と連携し、子ども達を地域で育成するきっかけづくりとした「グリーン大作戦」、家庭教育講座「ほのぼのの広場」、青少年育成団体と共催による



また、60周年を迎えた高齢者学級「ゆふ大学」では学習を通して人と出会い交流し、新たな生きがいを見出すことを目的に毎月の学習会やクラブ活動を行うっており、湯布院町の社会教育における様々な分野や幅広い世代の活動拠点となっている。

一方で、自治公民館に対しては各種活動の支援を行っており、地域活動に取り組む自治公民館との連携も図っているところである。

これからも、公民館まつりや各種文化活動、公民館企画展などを通じて様々な交流を促し、「誰もが利用できる・参加しやすい・また行きたくなる」公民館を目指していきたい。

各種スポーツ大会やふるさとの歴史や文化に実際に触れる機会を提供する「ゆふいんwakuwaku探検隊」など家庭（保護者）・学校・地域が一体となり青少年の育成を行っている。更に、川上地区集会所と合同して人権学習会などの人権教育・部落差別解消推進にも力を入れている。

第44回全国公民館研究集会

第73回九州地区公民館研究大会

鹿児島大会(録画配信)報告

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインイベントの開催が増えてきているが、今大会は録画配信なので、ゆっくり視聴することができた。

記念講演の講師「元ちとせ(奄美大島出身)」さんの「語り継ぐこと」と題しての、地域に見守られながら育った幼少期のお話では①夕涼みしながら昔話や島唄を聴いていた。②遠足は、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に行っていた。③仕事を終えた近所の人々が集まって、各家からお刺身やおかずを持ち寄り、地域で夕食をとっていた。など、現在の教育現場や社会教育が育もうとしている環境(少人数学級・子ども食堂・地域との触れ合い・地域文化の伝承等)が、生活していた奄美には普通に存在し、幼いころから刻みこまれていたことが印象に残った。

また、分科会では、「仕掛けの3要素(アウトプット)は、面白かった・楽しかった・嬉しかった ↓ 次も参加したい」、「利用する人を待つから、動く・飛び出す、アウトリーチの姿勢を持つことが大切」、「地域らしさを取り入れる」という話があった。

混沌とした時代ではあるが、前向きに歩みを進め、求められるニーズに応じていくことができる公民館活動に生かしていきたいと思った。「きばいもす、あいともさげもした」

中津市如水コミュニティセンター

館長 糸永 起也



当館では、地区公民館長・主事及び高齢者学級運営委員を対象に、リーダー研修会を開催している。コロナ禍でここ二年間中断していたが、今回の動画配信を知り感染者が減少した12月初めに研修会として視聴した。

内容は、地域の課題でもある第3分科会「高齢社会への対応」に絞った。

一本目は、福岡県岡垣町の「自分磨き」を目的とした公民館講座から「社会貢献」にステップする講座づくりの報告がなされた。しかし、その大半が自分磨きの目的で受講しており、社会貢献までアップするにはまだハードルが高く、その手立ての改善が課題である。

二本目は、鹿児島県鹿屋市の「高齢化社会に対応した公民館活動」を視聴した。高齢者大学の受講生と地域の中学三年生との交流を実践している。学校のカリキュラムにも位置づけ、生き方や考え方を伝える場となっている。また、公民館活動の中に学校応援団活動があり、校内の緑化活動や伝統踊りの継承等を支援している。

双方の発表とも今後一層求められる活動であり、過疎の進む地域においては学校と地域との支え合いもより必要となる。今後各各地区館と連携しながら、高齢者の自覚を高める高齢者学級づくりや若い人でも気軽に参加できる講座づくりを通して、地域の交流を高め地域の良さを発信していける公民館活動を目指したい。

国東中央公民館 館長 岐部 準次



第34回全国公民館セミナーに参加して(報告)

1月11日(水)〜13日(金)の間、東京丸の内明治生命ビルにおいて全国各地より60余名参加のもと開催された。

「公民館のミライ」副題・未来の公民館をデザインしよう!のもとシンポジウムから始まり、文科省施策説明・情報交換・事例発表とワークショップ・ワールドカフェ等が組み込まれ、地域が抱える課題や解決に向けての手がかり、公民館が果たすセンター的機能を周知するための情報共有が行われた。その中で特長的な報告として「自治組織が壊滅し、地域小学校PTAや子ども会が無くなった」と。理由として行政の企業誘致

に端を発し、山林や田畑が宅地造成され、地域外住民が大幅に増え自治会加入率15%・地域小学校児童数1000人超え・子ども会が消滅という想像できない深刻な事態に驚きを隠せなかった。それでも地域住民生涯学習拠点としての公民館の存在価値をミライに向けて関係諸機関と協働して切り開こうとしている熱量に刺激を受けた。全国各地で異なる課題はあれど、公民館が地域社会教育の担い手であることを再認識したセミナーであった。

日田市公民館運営事業団 五和公民館 館長 三ツ廣 荘規



令和4年度地域力を高める公民館活性化モデル事業の取組

由布市喜多里公民館

私たちの喜多里公民館には、「共助」を示す「目配り、気配り、思いやり」の標語が掲げられています。

この95世帯の自治区には、子育て世代もいるものの「老・老世帯」「独居高齢者」等が増え、これまで以上に世代を越えての「共助」が求められています。

しかし現実には、コロナ禍で「夏祭り」や年2回の防災訓練なども自粛され、「共助」を醸成する機会が少なくなっています。

モデル事業では、ウィズコロナを見据え自治区住民が主役をつとめる世代間交流等の復活を模索しました。

事業の一部を紹介すると、外部講師による健康講話・骨密度測定などのほか、公民館で毎週パッチワークなどを楽しんでいる「指先おしゃべり会」の指導で、12月には男性を含む高齢者を中心に25名が集い、クリスマス飾りの作成に挑戦しました。



地域に特化した防災講話資料



1月 防災講話の様子

由布市喜多里公民館
館長 花宮 廣務

国東市来浦地区公民館

「学びあう」「関わりあう」「みつめあう」公民館を目指して

本モデル事業のスタートに当たり、表題のキャッチフレーズを今年度の「公民館の運営方針」として掲げ、重点に沿った活動を推進することにより「地域力が高まる」という仮説を立て、三つの取組（絵手紙教室交流活動・陶芸教室交流活動・地域おこし講座交流座談会）を展開していった。

絵手紙教室や陶芸教室では、学ぶ楽しさや作る喜びを体感することはもとより、できた作品を地区内の高齢者施設にプレゼントするなど地域貢献・ボランティア精神が芽生えた。

また、両講座とも終了後、受講生から次年度も自主講座として取り組みたい、他のサークル（編かごづくりや舞踊やダンス教室）も企画したいとの声があがった。

地域おこし講座交流座談会では、幅広い年齢層が受講したこともあり、様々な立場、経験地域おこしに対する視野や夢等を交流しあうことにより、



地域おこし講座交流座談会 (7月～10月) 計3回



陶芸教室 (9月～10月) 計2回



絵手紙教室 (5月～7月) 計5回

国東市来浦地区公民館
館長 橋本 邦彦

九重町東飯田公民館

公民館は学習し交流できる場として身近な存在であるべきとしながらも、利用者は限定されている。その要因として、公民館に馴染みがないことや、交通の便が悪いため来ることが難しいという理由がある。以上の課題の解決に向け、アウトリーチ型の公民館講座を行った。

この講座では、地域の小さな集会所で行われるサロン等に出向き、脳活性化の体操やゲーム、講師による音楽療法を実施した。講座後の茶話会では、そこでしか聞けない地域住民の意見や要望を聞きだし、皆がよりよく

生活するための橋渡しを担うことを心掛けた。また公民館に来てもらうため、音楽療法の講師によるコンサートを公民館で開催。このコンサートは、講座の参加者が公民館へ足を運ぶきっかけになった。

本事業を通し、コロナ禍における高齢者の閉じこもり防止や交流の場としての拠点作り等、地域の実態に沿った取り組みを行い、地域住民と直接交流することの大切さを肌で感じる事が出来た。

九重町東飯田公民館

主任 切木 俊介



6月 前辻



9月 下旦

お知らせ

令和4年度表彰

大分県公民館連合会表彰

【優良公民館表彰】

豊後大野市大野公民館

【公民館優良職員表彰】

大分市坂ノ市校区公民館

大分市春日校区公民館

館長 仲築間徹一
安部鋼一郎 氏

【公民館勤続職員表彰】

豊後高田市東都甲公民館

国東市武蔵中央公民館

館長 阿形 寿一
伊藤 恭子 氏

国東市武蔵中央公民館

前館長 一丸由美子 氏

国東市西武蔵地区公民館

公民館主事 田邊 真弓 氏

大分市春日校区公民館

公民館主事 村岡 恭子 氏

佐伯市木立地区公民館

館長 安部 幸一 氏

日田市咸宜公民館

館長 松重 哲 氏

日田市高瀬公民館

館長 梶原 睦史 氏

日田市三芳公民館

館長 内山 均 氏

【公民館運営審議会委員表彰】

国東市安岐中央公民館 運営審議会
前委員 近藤 節子 氏

国東市国東中央公民館 運営審議会
委員 藤本加代子 氏

大分市大在公民館 運営審議会
委員 伊藤 英記 氏

広報コンクール表彰

【公立公民館報の部】

◆優秀賞 日田市上津江公民館 「上津江公民館だより」

日田市五和公民館 「五和公民館だより」

日田市大鶴公民館 「広報「大鶴」」

◆優良賞 竹田市久住公民館 「久住地域公民館だより」

日出町大神地区公民館 「おおが地区公民館通信」

◆自治公民館報の部

◆優秀賞 別府市中須賀東町公民館 「つくし」

別府市関の江新町公民館 「関の江新町」

別府市鶴見町公民館 「公民館だより」

◆優良賞 別府市楠町2区自治公民館

別府市原町公民館 「はらまち」

◆優秀賞 【ポスター・チラシの部】

◆優秀賞 日田市前津江公民館 「こけ玉づくり講習会」

別府市扇山公民館 「扇山ふる里まつり」

◆優秀賞 【ホームページの部】

◆優秀賞 豊後大野市 一般社団法人こからプラス

◆優良賞 別府市鶴見町公民館 「笑顔で、元気に、前向きに」

◆優秀賞 別府市扇山公民館 「扇山公民館要覧」

◆優良賞 別府市扇山公民館 「扇山公民館要覧」

令和5年度事業の予定

大分県公民館連合会関係

諸会議

会計監査

期日：4月7日(金)

会場：大分市(県庁舎)

内容：令和4年度会計監査

第1回理事会

期日：4月20日(木)

会場：大分市(大分県立図書館)

議事：令和4年度事業報告、令和5年度事業計画等

議事：令和4年度事業報告、令和5年度事業計画等

議事：令和4年度事業報告、令和5年度事業計画等

議事：令和4年度事業報告、令和5年度事業計画等

議事：令和4年度事業報告、令和5年度事業計画等

議事：令和4年度事業報告、令和5年度事業計画等

議事：令和4年度事業報告、令和5年度事業計画等

総会

期日：5月16日(火)

会場：大分市(大分県立図書館)

議事：令和4年度事業報告、令和5年度事業計画等

第2回理事会

期日：7月27日(木)

会場：大分市(大分県立図書館)

議事：第74回大分県公民館研究大会、大分県公民館連合会表彰等

各地区公民館連合会会議

期日：随時

会場：県内5箇所

各地区公民館連合会研修会

期日：随時

会場：県内5箇所

大分県公民館関係職員研修会

期日：5月16日(火)

会場：大分市(大分県立図書館)

大分県公民館チーム別研修会①

期日：7月14日(金)

会場：大分市(大分県立図書館)

大分県公民館チーム別研修会②

期日：9月15日(金)

会場：大分市(大分県立図書館)

第74回大分県公民館研究大会

期日：10月6日(金)

会場：九重文化センター

大分県公民館連合会表彰

期日：10月6日(金)

会場：九重文化センター

※第74回大分県公民館研究大会において表彰(予定)

情報提供

機関誌「ひろば」発行

期日：2024年3月

ホームページによる情報提供

期日：随時

九州公民館連合会関係

第1回会長会

期日：4月14日(金)

会場：長崎県長崎市

議事：令和5年度九州公民館連合会役員(案)、全国公民館連合会理事會報告等

第1回理事会

期日：4月14日(金)

会場：長崎県長崎市

議事：令和4年度事業・決算(案)・監査報告、令和5年度事業計画・予算(案)等

議事：令和4年度事業・決算(案)・監査報告、令和5年度事業計画・予算(案)等

議事：令和4年度事業・決算(案)・監査報告、令和5年度事業計画・予算(案)等

議事：令和4年度事業・決算(案)・監査報告、令和5年度事業計画・予算(案)等

議事：令和4年度事業・決算(案)・監査報告、令和5年度事業計画・予算(案)等

議事：令和4年度事業・決算(案)・監査報告、令和5年度事業計画・予算(案)等

第2回会長会

期日：8月23日(水)

会場：長崎県長崎ブリックホール

議事：第45回全国公民館研究集会、第74回九州地区公民館研究大会会長崎大会等

第2回理事会

期日：8月23日(水)

会場：長崎県長崎ブリックホール

議事：第45回全国公民館研究集会、第74回九州地区公民館研究大会、長崎大会等

第45回全国公民館研究集会・第74回九州地区公民館研究大会、長崎大会等

期日：8月24日(木)～25日(金)

会場：長崎県長崎市 長崎ブリックホール等

大会テーマ：「みんなで学ぼう！つなごうで！」

「公民館の「不易」と流行を考えると」

事務担当者会

期日：1月18日(木)

会場：大分県

議事：令和5年度事業報告・決算見込、令和6年度事業計画・予算(案)等

